

Economic Indicators

発表日:2020年6月10日(水)

企業物価指数(2020年5月)

～原油価格の低迷を主因に前月比で4か月連続の低下、先行きの持ち直しは限定的～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL:03-5221-4524)

(単位:%)

| | | 国内企業物価 | | | | 最終消費財 (国内品) | | 国内企業物価 (連鎖指数) | | 輸出物価 (円ベース) | | 輸入物価 (円ベース) | |
|------|-----|--------|------|------|----------------|----------------|------|------------------|------|----------------|------|----------------|-------|
| | | 前期比 | 前期比※ | 前年比 | 前年比 (消費税除く) | 前期比 | 前年比 | 前期比 | 前年比 | 前期比 | 前年比 | 前期比 | 前年比 |
| | 5月 | ▲0.1 | ▲0.1 | 0.7 | 0.7 | 0.0 | 0.3 | ▲0.2 | 0.7 | ▲1.4 | ▲2.6 | ▲0.6 | ▲1.9 |
| | 6月 | ▲0.6 | ▲0.6 | ▲0.2 | ▲0.2 | ▲0.5 | ▲0.4 | ▲0.4 | 0.1 | ▲1.7 | ▲4.3 | ▲2.0 | ▲5.8 |
| | 7月 | ▲0.1 | ▲0.3 | ▲0.7 | ▲0.7 | 0.0 | ▲0.5 | ▲0.1 | ▲0.4 | ▲0.3 | ▲5.0 | ▲1.9 | ▲8.4 |
| | 8月 | ▲0.2 | ▲0.2 | ▲0.9 | ▲0.9 | ▲0.3 | ▲0.7 | ▲0.3 | ▲0.7 | ▲1.3 | ▲5.9 | ▲0.6 | ▲8.5 |
| | 9月 | 0.0 | ▲0.1 | ▲1.1 | ▲1.1 | 0.1 | ▲0.8 | 0.1 | ▲0.8 | 0.0 | ▲6.3 | ▲0.8 | ▲9.7 |
| | 10月 | 1.2 | 1.5 | ▲0.3 | ▲1.9 | ▲0.4 | ▲1.9 | 1.2 | 0.0 | 0.4 | ▲6.3 | 0.3 | ▲10.9 |
| | 11月 | 0.1 | 0.1 | 0.2 | ▲1.4 | 0.1 | ▲1.1 | 0.1 | 0.4 | 0.2 | ▲6.1 | 0.3 | ▲11.3 |
| | 12月 | 0.1 | 0.1 | 0.9 | ▲0.7 | 0.4 | 0.2 | 0.1 | 1.0 | 0.1 | ▲4.4 | 1.0 | ▲6.7 |
| 2020 | 1月 | 0.1 | 0.1 | 1.5 | 0.0 | ▲0.2 | 0.6 | 0.1 | 1.6 | 0.3 | ▲1.5 | 0.6 | ▲0.8 |
| | 2月 | ▲0.4 | ▲0.4 | 0.8 | ▲0.8 | ▲0.4 | ▲0.2 | ▲0.4 | 0.9 | 0.2 | ▲2.2 | 0.1 | ▲1.8 |
| | 3月 | ▲0.9 | ▲0.9 | ▲0.4 | ▲2.0 | ▲0.9 | ▲1.4 | ▲0.8 | ▲0.2 | ▲2.3 | ▲5.1 | ▲4.7 | ▲7.7 |
| | 4月 | ▲1.6 | ▲1.6 | ▲2.4 | ▲3.8 | ▲1.5 | ▲3.6 | ▲1.5 | ▲2.1 | ▲1.1 | ▲6.6 | ▲5.8 | ▲13.3 |
| | 5月 | ▲0.4 | ▲0.4 | ▲2.7 | ▲4.1 | ▲0.5 | ▲4.1 | ▲0.3 | ▲2.2 | ▲1.2 | ▲6.5 | ▲5.6 | ▲17.6 |

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

※は夏季電力料金調整後の値。

○ 原油価格の低迷を受け、国内企業物価は前月比で4か月連続の低下

5月の国内企業物価は前月比▲0.4%（コンセンサス：同▲0.3%、レンジ：同▲1.1%～＋0.5%）、前年比▲2.7%（コンセンサス：同▲2.4%、レンジ：同▲3.3%～▲1.6%）と、ほぼコンセンサス通りの結果となった。また、消費税を除いた場合でみると前年比▲4.1%となった。

前月比で内訳をみると、原油価格の低迷を受けて石油・石炭製品が前月比▲8.1%（寄与度：▲0.39%pt）、化学製品が同▲0.4%（同：▲0.04%pt）と4月に引き続き低下した。また、豚肉、卵価格などの低下を受け農林水産物が同▲0.6%（同：▲0.02%pt）とマイナスに寄与している。一方、中国での生産活動再開などを受け、銅価格が上昇したことなどから、非鉄金属が同＋0.6%（同＋0.01%pt）と上昇に転じた。5月の国内企業物価は、新型コロナウイルス感染拡大による原油価格の低迷を受け、前月比で4か月連続の低下となった。足下では低下の主因である商品市況が持ち直していることから、6月は上昇に転じる可能性が高いだろう。

輸入物価指数は契約通貨ベースでは前月比▲5.3%、円ベースでは同▲5.6%となった。契約通貨ベースでみると、原油価格の低迷を背景に、4月に引き続き石油・石炭・天然ガスが前月比▲22.3%（寄与度▲5.08%pt）と大きく低下したことに加え、化学製品も同▲1.3%（寄与度▲0.13%pt）とマイナスに寄与した。商品市況の持ち直しを背景に6月以降上昇に転じると予想するが、世界経済の先行き不透明感が強いことなどから、持ち直しのペースは限定的なものにとどまるだろう。

○ 需要段階別・用途別指数は商品市況の低迷を受け低下が続く

需要段階別・用途別指数（国内品＋輸入品）をみると、素原材料は前月比▲10.5%（前年比▲

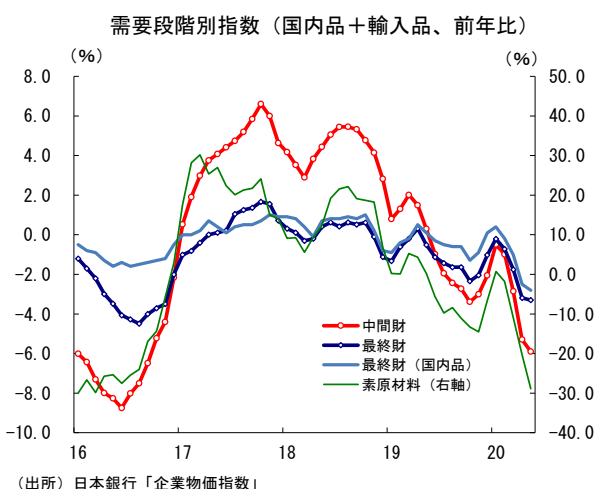
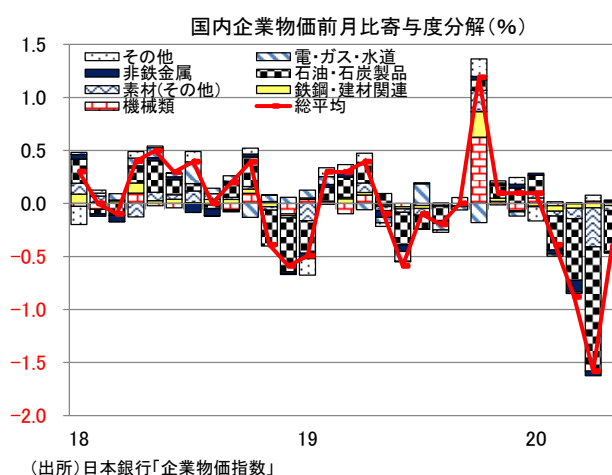
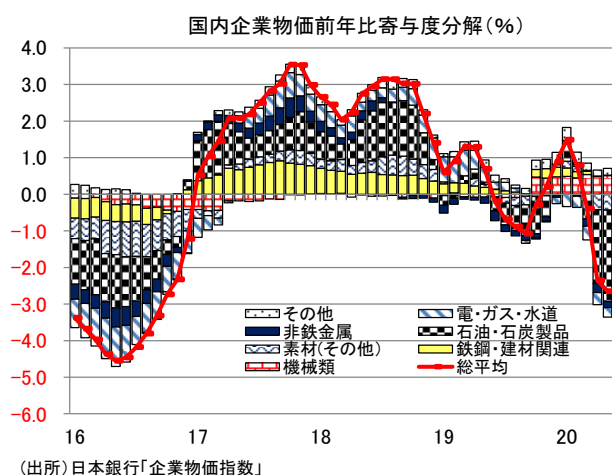
28.9%)、中間財は同▲0.9% (同▲5.9%)、最終財は同▲0.4% (同▲3.3%) となった。また、消費者物価との関連の深い消費財の国内品は▲0.5% (同▲4.1%) となった。原油の低迷などを背景に低下が続いた。6月以降、商品市況の持ち直しから素原材料を中心に上昇に転じる可能性が高いが、低水準での推移が続くだろう。

○ 国内企業物価は6月以降前月比で上昇に転じる可能性が高いが、先行きの持ち直しは限定的

以上より、5月の国内企業物価は原油価格の低迷を主因に4か月連続の低下となった。前年比でのマイナス幅が拡大するなど、新型コロナウイルス感染拡大に伴う商品市況の低迷を主因に弱い動きが続いた。

足下では、世界各国で経済活動再開の動きがみられており、商品市況は持ち直しをみせている。ただし、経済活動の再開は段階的なものとどまっていることや、世界全体では感染拡大が続いていることなど、先行きの不透明感は強い。また、景気の大幅悪化に伴い、国内企業物価は需給面からの下押し圧力を受ける可能性があるだろう。

商品市況の持ち直しから、国内企業物価は6月に前月比で上昇に転じ、その後も年半ばにかけて上昇が続くと予想する。とはいえ、世界経済の先行き不透明感は強く、持ち直しは限定的なものにとどまるだろう。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。